

◆総括表の各項目の評価内容

◆ゾーン分析図

重要度が十分認識されているものの、取組みに対する満足度は低い施策。従来の施策を改善することや新たな施策を検討するなど、他のゾーンの項目に優先した取組みが必要。

重要度が十分認識され、取組みも満足されている施策。今後も現在の水準を下げることなく、着実な取組みが求められる。

重要度の認識が低く、取組みに対する満足度も低いと考えられ、施策の見直しや取組みの方向性などの十分な検討が必要。

その重要度の認識が低いものの、取組みは満足されていると考えられ、今後も満足度の水準を下げることなく着実な取組みが求められる。

◆市民が感じている満足度・重要度

ゾーン分析【説明】
令和元年度市民意識調査における各施策に関する項目ごとの「満足度」と「重要度」について、回答を点数化しを各項目の得点とします。「満足度」の平均点を縦軸とし、「重要度」の平均点を横軸としてグラフ化し、左図のとおり4つのゾーンに分けて分析し、各施策の相対的な状況を捉えます。

H27年→R1年の推移【説明】
平成27年度と令和元年度の調査結果を比べて、上昇した場合は「↑」、後退した場合は「↓」

◆目標指標・令和元年度の達成度

【説明】
令和元年度の実績値が目標を達成しているか、達成していない場合の進捗状況について評価します。

A：達成している
B：達成には至っていないが進捗している
C：達成に至っておらず進捗に支障がある

◆目標指標の自己評価

【説明】
目標指標の内容や目標値が、現時点で妥当であるかどうかを評価します。

I：適切である（現状のまま継続する）
II：概ね適切である（一部見直しの余地がある）
III：あまり適切でない（見直し等の余地が大きい）
IV：問題がある（抜本的な見直しが必要）

◆施策の進捗自己評価

【説明】
目標指標の達成度や定性的な評価も踏まえ、現時点での施策の進捗を評価します。

A：順調に推移（目標達成している）
B：一定の進捗がある（目標達成に向け進捗）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる見込）
D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい見込）

政策1 安全・安心 安全で快適な生活環境が整っているまち

表1-1 施策ごとの中間評価

| 政策 | 施策 | 将来目標 | 市民が感じている満足度・重要度 | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | | | | 目標指標の自己評価 | 施策の進捗自己評価 | | |
|--------|---------------|---|-----------------|-------------|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|---|
| | | | ゾーン分析 | H27年→R1年の推移 | | 目標1 | 目標2 | 目標3 | 目標4 | 目標5 | 目標6 | | | 目標7 | |
| ①安全・安心 | ①交通安全対策の強化 | 交通事故が減少し、交通事故による死傷者数が少ない安全なまち | C・Cゾーン | ↓・↓ | ↑・↑ | A | | | | | | | | II | A |
| | ②防犯対策の強化 | 犯罪が起きにくく、市民が安心して暮らしているまち | Cゾーン | ↑ | ↑ | A | B | | | | | | | II | A |
| | ③防災対策の推進 | 被害を最小限に抑えるために、行政と市民が協働して、不意の災害に備えているまち | Cゾーン | ↓ | ↑ | B | B | A | A | A | C | B | | II | B |
| | ④消防・救急体制の充実 | 消防・救急体制が充実し、市民の生命と暮らしが守られているまち | A・Aゾーン | —・↑ | ↑・↑ | A | C | C | | | | | | II | B |
| | ⑤環境保全と生活衛生の向上 | 環境にやさしい活動が推進されるとともに、自然環境や生活環境が保全され、市民が快適に暮らしているまち | A・Aゾーン | ↑・↑ | ↑・↑ | C | B | A | | | | | | II | B |
| | ⑥ごみの適正処理の推進 | ごみの減量と資源化が進み、適正で持続可能なごみ処理が行われているまち | Aゾーン | ↑ | ↑ | C | C | A | | | | | | IV | B |
| | ⑦生活排水対策の推進 | 生活排水が適正に処理され、河川などの水環境が保全されているまち | Aゾーン | ↑ | ↑ | B | A | A | | | | | | I | B |
| | ⑧水道水の安定供給 | 安全でおいしい水が、安定して供給されているまち | Aゾーン | — | ↑ | A | A | A | | | | | | I | A |

表1-2 中間評価の集計

| 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | 目標指標の自己評価 | | | | 施策の進捗自己評価 | | | | | | |
|-----|-----------------|------|-------|------|-----|-----------------|-------|-------|--------|------|----------------|------|-----------------|------------------|-----------|-----------|----------------|-----------------|---------------|-------|---------|------------|------------|---------------|------|
| | ゾーン分析 | | | | | H27年→R1年の推移 | | | | | 指標数 | A:達成 | B:達成には至っていないが進捗 | C:達成に至っておらず進捗に支障 | 施策数 | I:現状のまま継続 | II:一部見直しの余地がある | III:見直し等の余地が大きい | IV:抜本的な見直しが必要 | 施策数 | A:順調に推移 | B:一定の進捗がある | C:進捗が遅れている | D:進捗が大幅に遅れている | |
| 11 | 7 | 0 | 4 | 0 | 11 | 6 | 3 | 2 | 11 | 0 | 0 | 25 | 13 | 6 | 6 | 8 | 2 | 5 | 0 | 1 | 8 | 3 | 5 | 0 | 0 |
| 比率 | 63.6% | 0.0% | 36.4% | 0.0% | 比率 | 54.5% | 27.3% | 18.2% | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 比率 | 52.0% | 24.0% | 24.0% | 比率 | 25.0% | 62.5% | 0.0% | 12.5% | 比率 | 37.5% | 62.5% | 0.0% | 0.0% |

表1-3 政策1総括

◆市民が感じている満足度・重要度

- 市民意識調査にて、全ての評価項目（11項目）で平成27年度から令和元年度にかけて重要度が上昇しており、評価項目の重要度も他の政策と比較して高い。また、ゾーン分析において、優先した取組が必要であるCゾーンに位置付けられた項目数（4項目）も最も多いことから、特にCゾーンに位置付けられた項目については、従来の取組の改善や新たな事業の検討が必要と考える。

◆目標指標と施策の進捗

- 「⑥ごみの適正処理の推進」の目標指標である「市民1人当たりの年間ごみ処理費用」は、昨今の国際動向による資源化物の逆有償化などの不確定要素が生じている。また、SDGsにおいて、ごみ発生抑制、再生利用および再利用等により大幅に削減することが掲げられていることから、目標指標の抜本的な見直しが必要であると評価されている。
- 「①交通安全対策の強化」と「③防災対策の推進」は、市民の満足度が後退している一方で、目標指標の達成度や施策の進捗は概ね順調であり、市民意識と事業進捗との間に乖離が見られるため、これまでの取組の検証を踏まえ、今後5年間の方向性を検討する必要がある。

第6次豊川市総合計画（2016〔平成28年度〕～2025〔令和7年度〕）改訂に係る中間評価 総括表 【政策2】

◆総括表の各項目の評価内容

◆ゾーン分析図

◆市民が感じている満足度・重要度

ゾーン分析【説明】
令和元年度市民意識調査における各施策に関する項目ごとの「満足度」と「重要度」について、回答を点数化しを各項目の得点とします。「満足度」の平均点を縦軸とし、「重要度」の平均点を横軸としてグラフ化し、左図のとおり4つのゾーンに分けて分析し、各施策の相対的な状況を捉えます。

H27年→R1年の推移【説明】
平成27年度と令和元年度の調査結果を比べて、上昇した場合は「↑」、後退した場合は「↓」

◆目標指標・令和元年度の達成度

【説明】
令和元年度の実績値が目標を達成しているか、達成していない場合の進捗状況について評価します。

A：達成している
B：達成には至っていないが進捗している
C：達成に至っておらず進捗に支障がある

◆目標指標の自己評価

【説明】
目標指標の内容や目標値が、現時点で妥当であるかどうかを評価します。

I：適切である（現状のまま継続する）
II：概ね適切である（一部見直しの余地がある）
III：あまり適切でない（見直し等の余地が大きい）
IV：問題がある（抜本的な見直しが必要）

◆施策の進捗自己評価

【説明】
目標指標の達成度や定性的な評価も踏まえ、現時点での施策の進捗を評価します。

A：順調に推移（目標達成している）
B：一定の進捗がある（目標達成に向け進捗）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる見込）
D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい見込）

政策2 健康・福祉 誰もが健やかに生き生きと暮らしているまち

表2-1 施策ごとの中間評価

| 政策 | 施策 | 将来目標 | 市民が感じている満足度・重要度 | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | | | | 目標指標の自己評価 | 施策の進捗自己評価 | | |
|--------|------------|--|-----------------|-------------|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|---|
| | | | ゾーン分析 | H27年→R1年の推移 | | 目標1 | 目標2 | 目標3 | 目標4 | 目標5 | 目標6 | | | 目標7 | |
| ②健康・福祉 | ①健康づくりの推進 | 市民自らが積極的に健康管理を行い、誰もが元気よく、生き生きと暮らしているまち | Bゾーン | ↓ | ↑ | A | B | | | | | | | I | B |
| | ②地域医療体制の充実 | 地域で完結する医療の提供と医療の質の向上により、市民がいつでも安心して適切な医療が受けられるまち | Aゾーン | ↑ | ↑ | B | A | A | A | | | | | II | A |
| | ③子育て支援の推進 | 安心して子どもを生み育てやすい環境が整っているまち | Aゾーン | ↑ | ↓ | C | B | B | | | | | | II | B |
| | ④高齢者福祉の推進 | 高齢者が自立し、生きがいのある生活を送っているまち | Cゾーン | ↑ | — | A | B | | | | | | | II | B |
| | ⑤障害者福祉の推進 | 障害のある市民が地域や家庭で自立し、充実した生活を営んでいるまち | Cゾーン | ↑ | — | A | C | | | | | | | III | B |
| | ⑥生活自立支援の充実 | 様々な生活課題を抱える市民が、必要な支援を受けながら、自立した生活を送っているまち | Dゾーン | ↑ | ↑ | B | | | | | | | | I | B |

表2-2 中間評価の集計

| 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | 目標指標の自己評価 | | | | 施策の進捗自己評価 | | | | | | |
|-----|-----------------|-------|-------|-------|-----|-----------------|-------|------|-------|-------|----------------|------|-----------------|------------------|-----------|-----------|----------------|-----------------|---------------|------|---------|------------|------------|---------------|------|
| | ゾーン分析 | | | | | H27年→R1年の推移 | | | | | 指標数 | A:達成 | B:達成には至っていないが進捗 | C:達成に至っておらず進捗に支障 | 施策数 | I:現状のまま継続 | II:一部見直しの余地がある | III:見直し等の余地が大きい | IV:抜本的な見直しが必要 | 施策数 | A:順調に推移 | B:一定の進捗がある | C:進捗が遅れている | D:進捗が大幅に遅れている | |
| 6 | 2 | 1 | 2 | 1 | 6 | 5 | 1 | 0 | 3 | 1 | 2 | 14 | 6 | 6 | 2 | 6 | 2 | 3 | 1 | 0 | 6 | 1 | 5 | 0 | 0 |
| 比率 | 33.3% | 16.7% | 33.3% | 16.7% | 比率 | 83.3% | 16.7% | 0.0% | 50.0% | 16.7% | 33.3% | 比率 | 42.9% | 42.9% | 14.3% | 比率 | 33.3% | 50.0% | 16.7% | 0.0% | 比率 | 16.7% | 83.3% | 0.0% | 0.0% |

表2-3 政策2総括

◆市民が感じている満足度・重要度

- 市民意識調査にて、全ての評価項目（6項目）のうち、5項目で平成27年度から令和元年度にかけて満足度が上昇している。「①健康づくりの推進」のみ満足度が▲0.01ポイント後退している。「③子育て支援の推進」は重要度が後退しているが、満足度が大幅に上昇していることや、ゾーン分析においても平成27年度のCゾーンからAゾーンになったことから、総合計画前半期間の子育て支援施策が一定の成果を挙げていると考えられる。

◆目標指標と施策の進捗

- 「⑤障害者福祉の推進」の目標指標である「障害者相談件数」は、基幹相談支援センターにおける相談件数が含まれておらず、現在の指標の考え方では障害者相談件数の適正な把握ができない（進捗に支障がある）ため目標指標としての設定について、見直しの余地が大きいと評価されている。
- 新型コロナウイルス感染症を初めとした新たな感染症予防に対する取組は政策全般に求められるものであるものの、特に「政策2健康・福祉」において、短中期的な対策の方向性を示し、展開を進める必要がある。

第6次豊川市総合計画（2016〔平成28年度〕～2025〔令和7年度〕）改訂に係る中間評価 総括表 【政策3】

◆総括表の各項目の評価内容

◆ゾーン分析図

◆市民が感じている満足度・重要度

ゾーン分析【説明】
令和元年度市民意識調査における各施策に関する項目ごとの「満足度」と「重要度」について、回答を点数化しを各項目の得点とします。「満足度」の平均点を縦軸とし、「重要度」の平均点を横軸としてグラフ化し、左図のとおり4つのゾーンに分けて分析し、各施策の相対的な状況を捉えます。

H27年→R1年の推移【説明】
平成27年度と令和元年度の調査結果を比べて、上昇した場合は「↑」、後退した場合は「↓」

◆目標指標・令和元年度の達成度

【説明】
令和元年度の実績値が目標を達成しているか、達成していない場合の進捗状況について評価します。

A：達成している
B：達成には至っていないが進捗している
C：達成に至っておらず進捗に支障がある

◆目標指標の自己評価

【説明】
目標指標の内容や目標値が、現時点で妥当であるかどうかを評価します。

I：適切である（現状のまま継続する）
II：概ね適切である（一部見直しの余地がある）
III：あまり適切でない（見直し等の余地が大きい）
IV：問題がある（抜本的な見直しが必要）

◆施策の進捗自己評価

【説明】
目標指標の達成度や定性的な評価も踏まえ、現時点での施策の進捗を評価します。

A：順調に推移（目標達成している）
B：一定の進捗がある（目標達成に向け進捗）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる見込）
D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい見込）

政策3 建設・整備 住み心地よい、訪れやすい都市環境が整備されているまち

表3-1 施策ごとの中間評価

| 政策 | 施策 | 将来目標 | 市民が感じている満足度・重要度 | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | | | | 目標指標の自己評価 | 施策の進捗自己評価 | |
|---------|---------------|--|-----------------|-------------|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|
| | | | ゾーン分析 | H27年→R1年の推移 | | 目標1 | 目標2 | 目標3 | 目標4 | 目標5 | 目標6 | | | 目標7 |
| ③ 建設・整備 | ① 住環境の整備 | 良好な住環境が整備され、快適な住宅市街地が形成されているまち | Bゾーン | ↑ | ↑ | B | B | A | B | A | | | II | B |
| | ② コンパクトシティの推進 | 多くの人が住み、行き来しやすい機能的な市街地が形成されているまち | Cゾーン | ↓ | ↑ | A | A | A | | | | | II | A |
| | ③ 道路交通網の充実 | 道路交通の円滑化が図られ、安心して通行できる道路環境が整備されているまち | Cゾーン | ↑ | ↑ | B | B | B | C | A | | | I | B |
| | ④ 緑や憩いの空間の充実 | 公園、緑地、水辺の空間が、人にやさしく、誰からも愛される緑豊かな憩いの場となっているまち | B・B・Bゾーン | ↑・↑・↑ | ↓・↓・↑ | B | A | A | A | | | | II | B |

表3-2 中間評価の集計

| 項目数 | ゾーン分析 | | | | 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | 目標指標の自己評価 | | | | 施策の進捗自己評価 | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|------|-----|-----------------|-------|---------|-------|-------|---------|----------------|-------|-----------------|------------------|-----------|-----------|----------------|-----------------|---------------|-----|---------|------------|------------|---------------|
| | Aゾーン | Bゾーン | Cゾーン | Dゾーン | | 満足度上昇 | 満足度後退 | 満足度変化なし | 重要度上昇 | 重要度後退 | 重要度変化なし | 指標数 | A:達成 | B:達成には至っていないが進捗 | C:達成に至っておらず進捗に支障 | 施策数 | I:現状のまま継続 | II:一部見直しの余地がある | III:見直し等の余地が大きい | IV:抜本的な見直しが必要 | 施策数 | A:順調に推移 | B:一定の進捗がある | C:進捗が遅れている | D:進捗が大幅に遅れている |
| 6 | 0 | 4 | 2 | 0 | 6 | 5 | 1 | 0 | 4 | 2 | 0 | 17 | 9 | 7 | 2 | 4 | 1 | 3 | 0 | 0 | 4 | 1 | 3 | 0 | 0 |
| 比率 | 0.0% | 66.7% | 33.3% | 0.0% | 比率 | 83.3% | 16.7% | 0.0% | 66.7% | 33.3% | 0.0% | 比率 | 52.9% | 41.2% | 11.8% | 比率 | 25.0% | 75.0% | 0.0% | 0.0% | 比率 | 25.0% | 75.0% | 0.0% | 0.0% |

表3-3 政策3総括

◆市民が感じている満足度・重要度

- 市民意識調査にて、全ての評価項目（6項目）のうち、5項目で平成27年度から令和元年度にかけて満足度が上昇している。「②コンパクトシティの推進」のみ満足度が後退しており、当該評価項目である「公共交通機関の利便性」の満足度は▲0.09ポイントとなるとともに、ゾーン分析においても平成27年度のDゾーンからCゾーンになったことから、「公共交通機関の利便性」について従来の取組の改善などが必要と考えられる。

◆目標指標と施策の進捗

- 目標指標（17指標）のうち9指標が令和元年度の目標を達成しており、他の政策と比較して達成数および達成率が高いことから、政策全般として施策が概ね計画的に進捗できていると考えられる。
- 未達成の目標指標については、人口減少社会を見据えた都市機能の集約や交通ネットワークなどの連携を踏まえて、適切な目標内容および目標値の設定が必要である。

第6次豊川市総合計画（2016〔平成28年度〕～2025〔令和7年度〕）改訂に係る中間評価 総括表 【政策4】

◆総括表の各項目の評価内容

◆ゾーン分析図

◆市民が感じている満足度・重要度

ゾーン分析【説明】
令和元年度市民意識調査における各施策に関する項目ごとの「満足度」と「重要度」について、回答を点数化しを各項目の評点とします。「満足度」の平均点を縦軸とし、「重要度」の平均点を横軸としてグラフ化し、左図のとおり4つのゾーンに分けて分析し、各施策の相対的な状況を捉えます。

H27年→R1年の推移【説明】
平成27年度と令和元年度の調査結果を比べて、上昇した場合は「↑」、後退した場合は「↓」

◆目標指標・令和元年度の達成度

【説明】
令和元年度の実績値が目標を達成しているか、達成していない場合の進捗状況について評価します。

A：達成している
B：達成には至っていないが進捗している
C：達成に至っておらず進捗に支障がある

◆目標指標の自己評価

【説明】
目標指標の内容や目標値が、現時点で妥当であるかどうかを評価します。

I：適切である（現状のまま継続する）
II：概ね適切である（一部見直しの余地がある）
III：あまり適切でない（見直し等の余地が大きい）
IV：問題がある（抜本的な見直しが必要）

◆施策の進捗自己評価

【説明】
目標指標の達成度や定性的な評価も踏まえ、現時点での施策の進捗を評価します。

A：順調に推移（目標達成している）
B：一定の進捗がある（目標達成に向け進捗）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる見込）
D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい見込）

政策4 教育・文化 あらゆる世代の人が豊かな心を育てているまち

表4-1 施策ごとの中間評価

| 政策 | 施策 | 将来目標 | 市民が感じている満足度・重要度 | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | | | | 目標指標の自己評価 | 施策の進捗自己評価 | | |
|--------|--------------|---|-----------------|-------------|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|---|
| | | | ゾーン分析 | H27年→R1年の推移 | | 目標1 | 目標2 | 目標3 | 目標4 | 目標5 | 目標6 | | | 目標7 | |
| ④教育・文化 | ① 学校教育の推進 | 児童・生徒が安全で安心できる教育環境の中で、確かな学力を身につけ、豊かな心を育てているまち | Aゾーン | ↑ | ↓ | A | A | C | A | | | | | III | B |
| | ② 青少年健全育成の推進 | 青少年が地域の中で、様々な体験や世代間交流を通じて生き生きと成長しているまち | Dゾーン | ↑ | ↓ | B | | | | | | | | II | B |
| | ③ 生涯学習の推進 | 多くの市民が生涯学習に親しみ、生きがいをもって暮らしているまち | Bゾーン | ↑ | ↑ | B | B | A | | | | | | II | B |
| | ④ スポーツの振興 | 多くの市民がスポーツを楽しみ、健康的で活力ある生活を送っているまち | Bゾーン | ↑ | ↑ | B | B | B | | | | | | I | B |
| | ⑤ 文化芸術の振興 | 文化芸術が身近にあふれ、市民が生き生きと心豊かに暮らしているまち | Bゾーン | ↑ | ↑ | B | C | C | | | | | | II | B |

表4-2 中間評価の集計

| 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | 項目数 | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | | | 項目数 | 目標指標の自己評価 | | | | 項目数 | 施策の進捗自己評価 | | | | | | | |
|-----|-----------------|-------|------|-------|-----|----------------|-------|---------|-------|-------|---------|-----|-----------|-----------------|------------------|-----|-----------|----------------|-----------------|---------------|-----|---------|------------|------------|---------------|
| | ゾーン分析 | | | | | H27年→R1年の推移 | | | | | | | 目標指標の自己評価 | | | | | 施策の進捗自己評価 | | | | | | | |
| | Aゾーン | Bゾーン | Cゾーン | Dゾーン | | 満足度上昇 | 満足度後退 | 満足度変化なし | 重要度上昇 | 重要度後退 | 重要度変化なし | 指標数 | A:達成 | B:達成には至っていないが進捗 | C:達成に至っておらず進捗に支障 | 施策数 | I:現状のまま継続 | II:一部見直しの余地がある | III:見直し等の余地が大きい | IV:抜本的な見直しが必要 | 施策数 | A:順調に推移 | B:一定の進捗がある | C:進捗が遅れている | D:進捗が大幅に遅れている |
| 5 | 1 | 3 | 0 | 1 | 5 | 5 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 14 | 4 | 7 | 3 | 5 | 1 | 3 | 1 | 0 | 8 | 0 | 5 | 0 | 0 |
| 比率 | 20.0% | 60.0% | 0.0% | 20.0% | 比率 | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 60.0% | 40.0% | 0.0% | 比率 | 28.6% | 50.0% | 21.4% | 比率 | 20.0% | 60.0% | 20.0% | 0.0% | 比率 | 0.0% | 62.5% | 0.0% | 0.0% |

表4-3 政策4総括

◆市民が感じている満足度・重要度

- ・市民意識調査にて、評価項目（5項目）全てが、平成27年度から令和元年度にかけて満足度が上昇しており、また、4項目がゾーン分析において、AゾーンまたはBゾーンに位置付けられていることから、他の政策と比較し得て市民の満足度が高い分野と考えられる。

◆目標指標と施策の進捗

- ・目標指標のうち「「学校とかかわりを持っていきたい」と思っている市民の割合」、「文化・芸術的な活動をしている人の割合」、「文化施設の利用者数」の3指標は目標設定の内容に問題があり、目標達成に向けた進捗に支障があるため、一部見直しの余地があると評価されている。
- ・また、目標指標のうち「給食の残食率」は目標を達成しているものの、将来目標を実現する主な手段である「安全・安心な給食の提供」であることを踏まえて、より適切な目標指標に変更を検討することから、見直しの余地が大きいと評価されている。

第6次豊川市総合計画（2016〔平成28年度〕～2025〔令和7年度〕）改訂に係る中間評価 総括表 【政策5】

◆総括表の各項目の評価内容

◆ゾーン分析図

◆市民が感じている満足度・重要度

ゾーン分析【説明】
令和元年度市民意識調査における各施策に関する項目ごとの「満足度」と「重要度」について、回答を点数化しを各項目の得点とします。「満足度」の平均点を縦軸とし、「重要度」の平均点を横軸としてグラフ化し、左図のとおり4つのゾーンに分けて分析し、各施策の相対的な状況を捉えます。

H27年→R1年の推移【説明】
平成27年度と令和元年度の調査結果を比べて、上昇した場合は「↑」、後退した場合は「↓」

◆目標指標・令和元年度の達成度

【説明】
令和元年度の実績値が目標を達成しているか、達成していない場合の進捗状況について評価します。

A：達成している
B：達成には至っていないが進捗している
C：達成に至っておらず進捗に支障がある

◆目標指標の自己評価

【説明】
目標指標の内容や目標値が、現時点で妥当であるかどうかを評価します。

I：適切である（現状のまま継続する）
II：概ね適切である（一部見直しの余地がある）
III：あまり適切でない（見直し等の余地が大きい）
IV：問題がある（抜本的な見直しが必要）

◆施策の進捗自己評価

【説明】
目標指標の達成度や定性的な評価も踏まえ、現時点での施策の進捗を評価します。

A：順調に推移（目標達成している）
B：一定の進捗がある（目標達成に向け進捗）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる見込）
D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい見込）

政策5 産業・雇用 魅力と活力があふれているまち

表5-1 施策ごとの中間評価

| 政策 | 施策 | 将来目標 | 市民が感じている満足度・重要度 | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | | | | 目標指標の自己評価 | 施策の進捗自己評価 | | |
|--------|------------------|---------------------------------------|-----------------|-------------|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|---|
| | | | ゾーン分析 | H27年→R1年の推移 | | 目標1 | 目標2 | 目標3 | 目標4 | 目標5 | 目標6 | | | 目標7 | |
| ⑤産業・雇用 | ① 農業の振興 | 効率的かつ安定的な農業経営により、魅力とやりがいのある農業が育っているまち | Dゾーン | ↑ | ↑ | B | A | B | A | | | | | II | B |
| | ② 工業の振興 | 工業事業所が増え、働ける場所が確保されているまち | Bゾーン | ↑ | — | A | B | | | | | | | II | A |
| | ③ 商業の振興 | 魅力ある商売が盛んで、みんなが出かけ、にぎわいにあふれているまち | Dゾーン | ↑ | ↑ | A | | | | | | | | II | A |
| | ④ 中心市街地の活性化 | 中心市街地が都市核としての特性を発揮し、にぎわいにあふれているまち | Aゾーン | ↑ | ↓ | A | B | | | | | | | I | A |
| | ⑤ 観光の振興 | おもてなしが盛んで、交流が生み出す活気にあふれているまち | Dゾーン | ↓ | — | B | | | | | | | | I | B |
| | ⑥ 雇用の安定と勤労者支援の充実 | 安定した雇用が確保され、勤労者の生活が充実しているまち | Cゾーン | ↑ | ↓ | A | A | | | | | | | II | A |

表5-2 中間評価の集計

| 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | 目標指標の自己評価 | | | | 施策の進捗自己評価 | | | | | |
|-----|-----------------|-------|-------|-------|-----|-----------------|-------|---------|-------|-------|---------|----------------|-------|-----------------|------------------|-----------|-----------|----------------|-----------------|---------------|-----|---------|------------|------------|---------------|
| | ゾーン分析 | | | | | H27年→R1年の推移 | | | | | | 指標数 | A:達成 | B:達成には至っていないが進捗 | C:達成に至っておらず進捗に支障 | 施策数 | I:現状のまま継続 | II:一部見直しの余地がある | III:見直し等の余地が大きい | IV:抜本的な見直しが必要 | 施策数 | A:順調に推移 | B:一定の進捗がある | C:進捗が遅れている | D:進捗が大幅に遅れている |
| | Aゾーン | Bゾーン | Cゾーン | Dゾーン | | 満足度上昇 | 満足度後退 | 満足度変化なし | 重要度上昇 | 重要度後退 | 重要度変化なし | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 1 | 1 | 1 | 4 | 7 | 6 | 1 | 0 | 3 | 2 | 2 | 12 | 7 | 5 | 0 | 6 | 2 | 4 | 0 | 0 | 6 | 4 | 2 | 0 | 0 |
| 比率 | 14.3% | 14.3% | 14.3% | 57.1% | 比率 | 85.7% | 14.3% | 0.0% | 42.9% | 28.6% | 28.6% | 比率 | 58.3% | 41.7% | 0.0% | 比率 | 33.3% | 66.7% | 0.0% | 0.0% | 比率 | 66.7% | 33.3% | 0.0% | 0.0% |

表5-3 政策5総括

◆市民が感じている満足度・重要度

・市民意識調査にて、全ての評価項目（7項目）のうち、6項目で平成27年度から令和元年度にかけて満足度が上昇しているが、「⑤観光の振興」のみ満足度が▲0.01ポイント後退している。また、「②工業の振興」はゾーン分析において、平成27年度のDゾーンからBゾーンになっており、総合計画前半期間において工業の振興施策が一定の成果を挙げていると考えられる。

◆目標指標と施策の進捗

・「⑤観光の振興」は、市民の満足度が後退している一方で、目標指標の達成度や施策の進捗は概ね順調であり、市民意識と事業進捗との間に乖離が見られるため、これまでの検証を踏まえ、今後5年間の方向性を検討する必要がある。また、今後の方向性の検討にあたっては、「アフターコロナ」における社会的な環境整備や新たな暮らしのスタイルを考慮する必要がある。

第6次豊川市総合計画（2016〔平成28年度〕～2025〔令和7年度〕）改訂に係る中間評価 総括表 【政策6】

◆総括表の各項目の評価内容

◆ゾーン分析図

◆市民が感じている満足度・重要度

ゾーン分析【説明】
令和元年度市民意識調査における各施策に関する項目ごとの「満足度」と「重要度」について、回答を点数化しを各項目の評点とします。「満足度」の平均点を縦軸とし、「重要度」の平均点を横軸としてグラフ化し、左図のとおり4つのゾーンに分けて分析し、各施策の相対的な状況を捉えます。

H27年→R1年の推移【説明】
平成27年度と令和元年度の調査結果を比べて、上昇した場合は「↑」、後退した場合は「↓」

◆目標指標・令和元年度の達成度

【説明】
令和元年度の実績値が目標を達成しているか、達成していない場合の進捗状況について評価します。

A：達成している
B：達成には至っていないが進捗している
C：達成に至っておらず進捗に支障がある

◆目標指標の自己評価

【説明】
目標指標の内容や目標値が、現時点で妥当であるかどうかを評価します。

I：適切である（現状のまま継続する）
II：概ね適切である（一部見直しの余地がある）
III：あまり適切でない（見直し等の余地が大きい）
IV：問題がある（抜本的な見直しが必要）

◆施策の進捗自己評価

【説明】
目標指標の達成度や定性的な評価も踏まえ、現時点での施策の進捗を評価します。

A：順調に推移（目標達成している）
B：一定の進捗がある（目標達成に向け進捗）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる見込）
D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい見込）

政策6 地域・行政 地域と行政がしっかりと支えているまち

表6-1 施策ごとの中間評価

| 政策 | 施策 | 将来目標 | 市民が感じている満足度・重要度 H27年→R1年の推移 | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | | | | 目標指標の自己評価 | 施策の進捗自己評価 | | |
|--------|-------------------------|---|--------------------------------|-----------------|---------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|---|
| | | | ゾーン分析 | 満足度 | 重要度 | 目標1 | 目標2 | 目標3 | 目標4 | 目標5 | 目標6 | | | 目標7 | |
| ⑥地域・行政 | ① コミュニティ活動・市民活動の推進 | 市民自らの発想や想像力を生かしたコミュニティ活動や市民活動が活発に行われているまち | Bゾーン | ↓ | ↓ | C | B | | | | | | | IV | B |
| | ② 男女共同参画の推進 | 男女が協力して、個性と能力を発揮し活躍しているまち | Dゾーン | ↑ | ↑ | B | | | | | | | | I | B |
| | ③ 人権啓発の推進 | 人権が尊重され、一人ひとりの市民が明るく豊かな生活を営んでいるまち | Bゾーン | ↑ | ↑ | A | | | | | | | | I | A |
| | ④ 多文化共生の推進 | 日本人市民と外国人市民の相互理解が深まり、異なる文化を持つ人々が共生しているまち | Dゾーン | ↑ | ↑ | A | B | | | | | | | II | B |
| | ⑤ 開かれた市政の推進 | 市民と行政が情報を共有し、市民が市政に参加しているまち | B・Dゾーン | ↑・↑ | ↑・↑ | B | A | B | | | | | | II | B |
| | ⑥ 公共施設の適正配置と長寿命化の推進 | 公共施設が新たな価値を創出し、多くの人に安心して利用されているまち | C・Dゾーン | ↑・↑ | ↑・↑ | B | | | | | | | | I | B |
| | ⑦ 健全で持続可能な行財政運営と広域連携の推進 | 効率的で効果的な行財政運営がなされ、良質な行政サービスが利用されているまち | 5評価項目のうち D=4・C=1 | 5評価項目のうち ↑=5 | 5評価項目のうち ↑=2・↓=3 | B | B | B | B | A | | | | II | B |

表6-2 中間評価の集計

| 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | 項目数 | 市民が感じている満足度・重要度 | | | | | | 目標指標・令和元年度の達成度 | | | | 目標指標の自己評価 | | | | 施策の進捗自己評価 | | | | | |
|------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-----------------|-------|-------|---------|-------|------|----------------|-------|-----------------|------------------|-----------|-----------|----------------|-----------------|---------------|-----|---------|------------|------------|---------------|
| | ゾーン分析 | | | | | H27年→R1年の推移 | | | | | | 指標数 | A:達成 | B:達成には至っていないが進捗 | C:達成に至っておらず進捗に支障 | 施策数 | I:現状のまま継続 | II:一部見直しの余地がある | III:見直し等の余地が大きい | IV:抜本的な見直しが必要 | 施策数 | A:順調に推移 | B:一定の進捗がある | C:進捗が遅れている | D:進捗が大幅に遅れている |
| Aゾーン | Bゾーン | Cゾーン | Dゾーン | 満足度上昇 | 満足度後退 | 満足度変化なし | 重要度上昇 | 重要度後退 | 重要度変化なし | 比率 | 比率 | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 0 | 3 | 2 | 8 | 13 | 12 | 1 | 0 | 9 | 4 | 0 | 15 | 4 | 10 | 1 | 7 | 3 | 3 | 0 | 1 | 7 | 1 | 6 | 0 | 0 |
| 比率 | 0.0% | 23.1% | 15.4% | 61.5% | 比率 | 92.3% | 7.7% | 0.0% | 69.2% | 30.8% | 0.0% | 比率 | 26.7% | 66.7% | 6.7% | 比率 | 42.9% | 42.9% | 0.0% | 14.3% | 比率 | 14.3% | 85.7% | 0.0% | 0.0% |

表6-3 政策6総括

◆市民が感じている満足度・重要度

- 市民意識調査にて、全ての評価項目（13項目）のうち、12項目で平成27年度から令和元年度にかけて満足度が上昇している。満足度が後退している「①コミュニティ活動・市民活動の推進」の評価項目である「地域のつきあいや人間関係」は重要度も後退しており、市民意識調査の全評価項目（48項目）のうち、満足度・重要度ともに後退している唯一の項目であることから、地域のつきあいや人間関係の希薄化が進んでいると考えられる。

◆目標指標と施策の進捗

- 「①コミュニティ活動・市民活動の推進」の目標指標である「町内会加入率」は、住民基本台帳上の世帯数を分母として算出しており、近年の世帯分離などの増加の状況が適切に反映されないため、目標指標としての抜本的な見直しが必要と評価されている。また、今後の人口減少社会においては、地域コミュニティの重要性は増してくると考えられるため、時代やニーズを捉えた地域コミュニティの形成に取り組む必要がある。
- 政策6は、Dゾーンに位置付けられる評価項目（8項目）が多いが、市民の満足度・重要度を高めるために、事業の見直しや取組の方向性などの十分な検討が必要と考える。